

おのきた

尾北校長室から

第18号



「冬至に思う」 ～ 未来を動かす

皆さん、おはようございます。今年も残り1週間となりました。2日前の12月21日は、今年の「冬至」の日でした。今回は、この冬至にちなんだ話をします。キーワードは「**0学期**」です。

冬至という日は、昼間が最も短くなる日です。この日の前後には、昔から冬至の「と」にちなんで、唐茄子（とうなす）や豆腐など、「と」がつくものを口にする習慣があります。唐茄子とはカボチャのことで、この時期にとれるものの中では栄養価が高いので、食べると良いとされています。また、カボチャは別名、南瓜（なんきん）とも呼ばれ、「ん」が2度つくことから語呂合わせで「運」を呼び込む縁起の良い食べ物としても口にされることが多いようです。

さて、昼間の時間は、この冬至の日を折り返し点にして長くなっていっています。この冬の真最中にすでに「**春の種**」が蒔かれ、次の季節への準備が静かに、しかし確実に進んでいます。学校生活では、この冬休みが後期6か月の折り返し点です。皆さんの中に正月からの3か月は「後期の残り半分」と単純に考えている人はいませんか？ もう少し積極的に過ごす心構えについて一緒に考えてみましょう。ヒントとなるのが冬至です。冬至の日から春の一部がすでに動き始めていることをイメージしてください。同じように、現在という時間の中に未来に起こることの一部が既に含まれています。それはまだ形になっていないので見過ごされていますが、未来のある時点で見える形、つまり結果となって表れてきます。現在の一日一日をどのように過ごすかによって、おのずと未来の姿は良くも悪くも変わってきます。現在が変われば、未来も変わる——当たり前のことですが、改めて確認をしておきたいと思います。

ところで、本校の昨年までの学校紹介パンフレットの表紙には、ある言葉が書かれてあります。中学生用にオープンスクールなどで配られたもので、覚えている人もいるかもしれません。それは「**未来を動かす尾北**」という言葉です。尾道北高校で未来の社会を動かすような力をつけよう、というキャッチフレーズで、私もいい言葉だなと思っています。「未来を動かす尾北」を実現するにはどうすればよいか？ 「そんなたいそうなことは自分にはできない」と思ってはいませんか？ 未来を動かしてみましょう。まずは「自分の未来」を動かすために、「自分の現在を動かす」ことです。自分の現在の動かし方には、どのようなものがあるか？

人生はマラソンだといった人がいますが、世の中には種々のレースがあり、その多くは「**スタートの号砲のないレース**」になっています。それに気付いた人から自分の起動スイッチを押して静かにスタートを切っていきます。何事にも本番での勝負の前に「**準備の勝負**」があり、あるTV番組、チョコちゃんではないですが、普通にポーとしていると普通にレースに負けることになります。

そこで、「未来を動かす北高生」は、後期折り返し点からの3か月を単純に「残り半分」としてではなく、春に向けた準備期間と考えてもらいたい。心新たに「0学期」として捉えなおし、1年生は「2年生0学期」、2年生は「3年生0学期」、3年生は「社会人・大学生0学期」としましょう。現在が変われば未来も変わる。何事も早く準備を始めることで、それが自分の未来を動かすことになっていくはずですよ。

おわりに、自分の未来を動かす北高生には、明日何をするか、よりも「**今日何をしたか常に現在を振り返る姿勢**」を期待したいと思います。自然はすでに「春への種蒔き」を終えています。私たちも今日、季節と2日遅れの「春への種蒔き」をしておきましょう。今回は、正月からは「0学期」だという話をしました。この冬休みには、短い期間ですが自分で使える時間が格段に増えます。特にゴール間近の3年生、頑張ってください。皆で応援しています。新年、それぞれの「0学期」にはまた、全員元気な顔で会いたいと思います。